



人口移動と地域社会変動に関する定量的定性的研究

人文科学系・人文社会学領域

水垣 源太郎

教授

MIZUGAKI Gentaro

文学修士(京都大学)

■研究キーワード 地域社会学,組織社会学,コミュニティ開発,政治社会学,宗教社会学

■主な所属学会 政治社会学会,International Institute of Sociology,地域社会学会,International Sociological Association

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.808e2732e69585c2520e17560c007669.html>

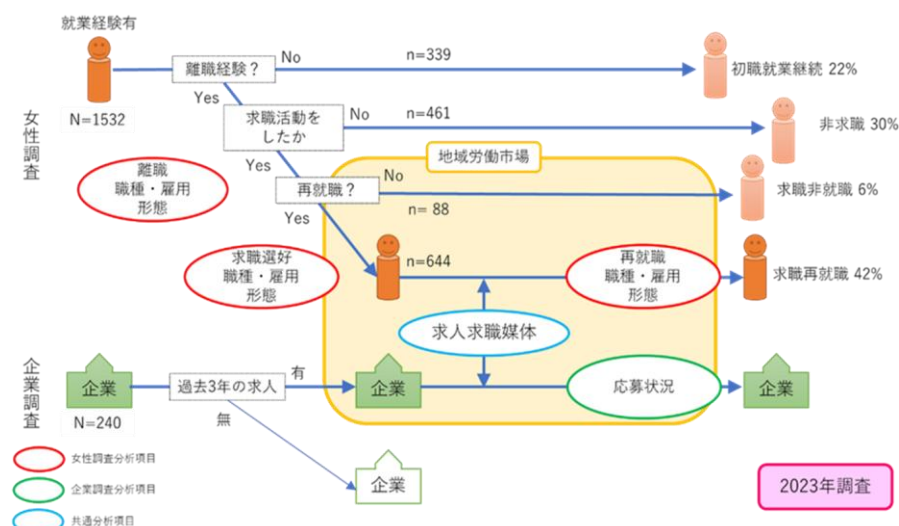


研究者総覧

研究概要

人口減少社会における生活の質を規定する社会的要件を、定量的・定性的社会調査によって明らかにする研究を行っています。また地域課題の解決や生活の質の向上に向けてコミュニティへのアクションと評価を行うアクション・リサーチも行っています。以下のようなテーマで自治体や社会福祉法人などとの共同研究も行っています。

- ①地域労働市場と女性の就業・育児・サポートネットワーク
- ②移住者定着メカニズムの社会ネットワーク分析と移住政策評価
- ③高齢者のソーシャル・サポート・デザイン
- ④地域活性化に向けたコミュニティ・アクション・リサーチ、など
- ⑤将来人口推計と人口目標の設定



育児期女性・事業所調査のフレームワーク

アピールポイント

1. 大規模社会調査と政策提案・評価
2013年より育児期女性の就業継続・再就業とサポートネットワークに関する大規模調査を実施しています。2016年、2023年は奈良市内の事業所と女性就業者への調査を通じて、意識の変革を目標とする長期的取り組み、就業環境の改善をめぐる短期的取り組みなどに関する政策提案を行いました。
2. 移住定住に関する社会調査分析
定住人口・関係人口・交流人口を含むソーシャル・ネットワーク分析を通じて、移住者の定着メカニズムを計量的に解明し、移住政策の評価を行いました。本研究で開発した手法は、移住政策の効果検証や、今後の展開に必要なサポートの種類と投入タイミングの特定に役立ちます。
3. 地域的将来人口推計と人口目標の設定
地域人口の動態は当該地域の都市システム上の位置、教育資源、地域労働市場、人々のライフステージによって異なります。住民基本台帳に基づいた人口動態分析を行い、将来人口推計のモデル構築と人口目標の設定を行いました。その成果は地域版総合戦略策定に役立てられました。
4. コミュニティ調査とアクション・リサーチ
ソーシャル・ワーカー、観光・地場産業事業者、住民組織など多様なステークホルダーに関わっていただき、地域課題の解決や生活の質の向上に向けた地域連携教育やアクション・リサーチを実施しています。



コロナ下で外出機会が減少した高齢者の心身健康維持に資するアクションの提案